第３回 開催結果報告

高田松原津波復興祈念公園　市民協働ワークショップ

～ すぐ始められる取組みを探そう！～

平成 28 年６月 15 日開催

県では、東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市高田松原地区を対象に、学識経験者等で構成する有識者委員会を設置し、本公園の基本設計の検討を進めています。その一環として平成 28 年６月 15 日に、地域の皆様に本公園の検討状況等についてお知らせし、より良い公園とするための意見交換の場として、「高田松原津波復興祈念公園市民協働ワークショップ～第３回　すぐ始められる取組みを探そう！～」を開催しました。

ワークショップには、**20 歳代から 70 歳代までの幅広い世代の方々、36 名にご参加いただき**、テーマ毎に分かれて意見交換を行い、最後はグループ毎に発表を行いました。

■ワークショップの内容

開 催 日：平成 28 年 6 月 15 日（水）　**開催場所：陸前高田市役所４号棟３階第６会議室**

開催時間：18 時 30 分から 21 時　**参加人数：36 名**

1 ＜全体説明＞

第２回市民協働ワークショップの結果概要、本公園の基本設計の検討状況、震災津波伝承施設展示等基本計画の検討状況等について説明を行いました。

2 ＜テーマ別意見交換＞

第２回とおなじ４つのテーマ（5 グループ）に分かれて、「誰が」「どこで」や、「自分ならどうしたい」などの観点から、第２回の意見をより具体的に深めました。

3 ＜意見発表＞

最後に、各グループで出された主な意見の発表を行い、全テーマの議論の内容を全員で共有しました。主な意見は以下に示したとおりです。

■第３回ワークショップ　参加者の皆さんからの主な意見

テーマ１：高田松原の利用のリスク軽減

＜完成前の避難ルート検証＞完成前の見学会的に逃げ地図作成をとおして検証／休工日等を利用し工事期間中の対応を含めて検証／障がいがある人も検証の場に入ってもらい、移動速度等を考えるべき

＜逃げ地図づくり＞当初は行政主体の有志で作成し、定期更新が出来る仕組みへと発展／作成事例を活かし地域住民や小・中学校の参加（中学生が小学生に教える等の連携）／道の駅・伝承施設スタッフの参加

＜来園者への周知＞全員に避難地点とルートを周知出来る仕組み／危険な場所にいることを全員に知らせ、分かってもらう／非常時は市民が率先して声かけしながら逃げる／逃げ地図パンフレットを周知に活用／避難ルートを利用したスタンプラリー／避難上のポイントに現在地入りの地図を設置／避難到達地点に灯台のような明るい光等の目印を設置

＜障がいがある人への対応＞誰にでも分かり見やすいサイン（ピクトグラム等）／アイマスクや耳栓を用いた検証／様々な障がい種別を考慮

＜車での避難ルール・国道の横断＞　立体横断施設の設置が必要／車での夜間利用をもっと想定すべき

＜子供達への教育・伝承＞小・中学校で避難訓練を実施／防災教育の場として公園を活用（リスクを伴うために、学校教育に取り入れる前に先行的な取組みがあるべき）／市内の学校のカリキュラムに避難教育を取り入れる／市長に学校教育にとりいれるよう提唱してもらう

テーマ２：利活用（教訓の伝承）

＜誰に伝承するか＞津波を経験していないすべての人／子供たち／海外も含めた地域外の人

＜何を伝承するか＞命の大切さ／人の強さ／津波の恐ろしさ／被害の大きさ／繰り返さないための手段

＜どのように伝承するか＞視覚的に伝える／津波の高さまで上るなど体験で伝える／津波の強さや速さをイメージしやすく伝える

＜どの場所で伝えるか＞公園としての祈りの場が必要／エリア毎に想定される来園目的に応じて伝承する内容に変化をつける／主に国のエリアだが園内各所で被災地であると気が付くしくみも必要／広島の平和記念公園のようにしっかり学べる場が必要

＜追悼・鎮魂の方法＞亡くなった方の名前と年齢を刻む／追悼の鐘を設置／花を供える場所を設ける／３月 11 日に海上七夕や灯篭流しを行う

＜遺構の活用方法＞下から眺めても津波の威力は伝わらない／タピックの上に上がり津波の高さを伝える／中に入れないなら映像で示す／気仙中学校は避難、定住促進住宅は日常生活と被災などメッセージを絞る／地図等により遺構を巡るしくみづくり／被災前後の写真とセットで見てもらう

＜市民のできること＞被災者の声を映像化して残す／今後も市民の声を施設や展示に反映させる／解説者として来訪者に伝える

テーマ３：利活用（レクリエーション・交流）-1

＜参加型のイベントの開催・リピーターの確保＞高田松原の再生活動への市民・来園者の参加・活動主体としての「高田松原を守る会」との連携／「マルゴト陸前高田」などの既存の活動団体との連携／来園者が長い時間をかけて完成させるモザイクアート／福祉施設等と連携したアートのピース作成・販売／RV パークの整備／体育協会等の意見を反映した運動施設整備・体育協会等が主体となった大会等の誘致

＜中心市街地と公園の一体的な利用＞本丸公園からの眺望等、市街地に行かなければ体験できない魅力づくり／祈念公園、市街地で機能の分担・調整／公園と市街地を巡るストーリーづくり／商工会、マルゴト陸前高田、SAVE TAKATA などの関連する取り組みを行っている団体との情報交換／復興支援連絡会等の既存の場の有効活用（半島、内陸の活動団体の参加を含む）

＜市民協働による公園の受入体制＞高田高校の生徒による震災に関する研究成果の発信・全国各地の高校等と交流／被災前の高田松原公園で行われていた市民による維持管理活動の継続（地域文化・伝統としての継承）／市民の参加や利活用のアイデアなどを柔軟に受け入れることができる管理運営体制の構築（指定管理者制度等による民間、地元企業・団体の活用等）

テーマ３：利活用（レクリエーション・交流）-2

＜中心市街地と公園の一体的な利用＞公園の利活用には中心市街地との連携が最も重要／連携に必要な各エリアの機能を明確にし、行政、民間（商業関係者、住民）それぞれで役割分担しながら協働／イベントを企画・運営し、人や団体をつなぐ役割を担う組織・人材（コーディネーター）も重要

＜川原川とシンボルロードに挟まれた区域での取組ー行政主体＞　公園と市街地をつなぐ魅力ある移動手段導入／フリーマーケット等のイベント開催による集客（まずこの区域に人を集め、隣接する公園と市街地へ誘導）

＜本丸公園での取組ー行政主体＞本丸公園からの眺望確保／公園と市街地の情報提供／震災前後の違いがわかる写真掲示等

＜公園での取組ー行政主体＞人を誘う新・道の駅（物販）のにぎわいの演出、45 号からのわかりやすさ（見え方・案内標識等の整備）／撮影スポットの案内（市街地～本丸公園へ誘導）／避難訓練により公園から市街地へ誘導

＜公園での取組ー住民主体＞コミュニティ単位での草刈り活動等

＜全体での取組ー商業関係者主体＞公園と中心市街地を巡るスタンプラリーの開催等／中心市街地と連動したイベント開催

テーマ４：植栽・自然再生

＜松原＞公園全体としては高田らしさ＝松原を主体とすべき／苗の提供～植樹～維持管理まで可能な限り市民ボランティアと協力しながら活動していきたい（高田松原を守る会）／松原を通して様々な活動・交流が生まれるような公園としたい／津波エネルギーの減衰・苗の育成等をふまえ松原の幅はできるだけ広くしたい／全国の松原保全団体と連携した取組みができるとよい／市民が自ら植栽する場所を増やすことで公園に対する愛着を育みリピーター増につなげたい

＜海浜植物＞ニッコウキスゲ、ハマナスは第一線堤と第二線堤の間、コウボウシバ、オカヒジキ等は、第一線堤の海側が生育に適している

＜桜＞松が小さいうちは桜が潮風に耐えられない可能性が高く植栽位置の検討必要／早咲き・遅咲き等の品種を混ぜ長時間花を楽しめるようにしたい／維持管理等の協力を前向きに検討（桜ライン 311）

＜その他＞市民参加の花時計づくりや、目玉となる植栽等で公園のみどころづくり・訪れる人へのもてなしに／植栽にもストーリー性をもたせたい／日本古来の植種や地元の植種の使用／在来種選定により維持管理の手間削減を図るべき／周辺地域の樹木移植等も検討し公園に取込めるとよい／つくりこまないエリアを設け復興とあわせて自然が再生する力強さを感じられる場としたい／様々な植物の北限であることに着目し収穫も楽しめる植栽を行い観光客誘致に／市民が自由に花を植えられるスペースがあるとよい／誰でも気軽に参加できるような雰囲気づくり、市民参加による管理の仕組みづくり等を今後具体的に検討すべき